

令和 6 年 6 月 25 日

蕨市議会 議長 様

会派名 新翔会
氏 名 金丸けんじ

先進地視察調査報告書

次のとおり先進地視察調査を行ったので報告します。

1. 調査年月日	令和 6 年 6 月 24 日（月） 日帰り	
2. 調査先・調査項目	埼玉県戸田市 ① 戸田市立戸田東小学校（ICT、PBL、STEAM 教育） ② 教育支援センターすてっぷ（不登校児童支援）	
3. 参加者	古川歩、大石圭子、小林利規、比企孝司 栃本よしかね、庄野航二、岡田三喜男、金丸けんじ	
4. 宿泊場所	なし	
5. 費用	宿泊費	円
	交通費	円
	土産代	2,990 円
	夕食代	円
	その他（資料代）	4,000 円
	合 計	6,990 円
6. 調査内容	別紙のとおり	

※上記の先進地視察調査で支出した政務活動費について、全ての領収書またはこれに準ずる書類を添付すること。また、旅行代理店等を通じて手配した旅費、宿泊費等は、その詳細（旅費、宿泊費等の内訳）も添付すること。

◇内容

① 戸田市立戸田東小学校にて主に下記を視察

1. 全学年・全教科での ICT 端末やデジタル黒板を活用した授業
2. PBL（プロジェクト・ベースド・ラーニング「問題解決型学習」）
3. STEAM 教育が行われる施設 STEAM Lab
4. 教育委員会の方針について

② 「教育支援センターすてっぷ」にて不登校児童支援及び児童の様子を見学

◇所感①について

1. 1人一台の ICT 端末を、子どもたちが大人以上に手慣れた手つきで使いこなす様子に加え、音楽など全ての授業で児童も教員も ICT を文房具として活用している様子を拝見した。消しゴムや定規と同じように ICT が当たり前にある最先端の学びに触れた。
2. 「商店街の店舗活性」について、児童が数人に分かれてグループワークを行い、ICT を用いてアイデアを形にしていく様子を見学した。従来の「正解が有り」知識を詰め込み、教わるだけの授業ではなく、「正解のない課題」に対して、対話の中で解決策を模索するという、まさに社会に出てから一番求められる力を養う様子は驚きだった。
3. 3D プリンターなど最先端の道具を用いて、試行錯誤しながらアイデアを形にしていける施設「STEAM Lab」を見学した。反面、自然の中で体と五感を用いての造形も脳や心の生育に良いとの研究も有り、本視察だけでは、森の中で落ち葉や枯れ枝を用いて造形することと「STEAM Lab」との本質的な違いは判らなかった。自然とデジタルとの比較研究結果も今後の研究対象としたい。
4. 訪れた戸田東小学校は総理大臣も視察に訪れる日本最先端の学びの場である。戸田市教育委員会や教育長がどのようにリーダーシップを取り、教育現場全体として学びの場を作り上げているのか校長先生から直接伺うことが出来た。全国的に教育行政や教育委員会の取り組みに独自性が出てきている中でリーダーシップの多様性も学んだ。

◇所感②について

何より子どもたちが、非常に安心した自然体の笑顔で過ごしていることに感激した。居場所として心理的安全性、過ごし方・カリキュラム・服装の自由度、スタッフの皆さまの接し方など多くの学びがあった。蕨市でも来年度から全中学校内に不登校児童支援施設が拡充予定であり、当視察をもとに市との対話を深めていきたい。

令和6年11月20日

蕨市議会議長 様

会派名 新翔会
氏 名 栃本よしかね

先進地視察調査報告書

次のとおり先進地視察調査を行ったので報告します。

1. 調査年月日	令和 6 年 1 1 月 1 5 日（金） 日帰り		
2 調査先・ 調査項目	・ TEAM BLUE 「おうちにかえろう。病院」 東京都板橋区大原町 44-3 ・ 病院施設及び運営に係る調査研究		
3. 参 加 者	前川やすえ 栃本よしかね		
4. 宿 泊 場 所			
5. 費 用	宿泊費	円	夕食代 円
	交通費	円	その他（見学費） 18,344 円
	土産代	円	合 計 18,344 円
6. 調 査 内 容	別紙のとおり		

※上記の先進地視察調査で支出した政務活動費について、全ての領収書またはこれに準ずる書類を添付すること。また、旅行代理店等を通じて手配した旅費、宿泊費等は、その詳細（旅費、宿泊費等の内訳）も添付すること。

広聴会・研修会等（参加）実施報告・先進地視察調査報告

会派名 新翔会

(/ 頁)

1 視察先

TEAM BLUE 「おうちにかえろう。病院」

東京都板橋区大原町 44-3

2 調査項目

新設病院の施設及び運営内容について

3 調査目的

議会に設置された「蕨市立病院建替え整備特別委員会」での調査研究を進めていくに当たり、知見を深めるものとして、蕨市立病院と同程度の規模で近年新しく開設され、地域包括ケア病棟を主体に運営している病院について、その施設及び運営内容について見学するもの。

4 「おうちにかえろう。病院」の概要及び特徴

- ・ 2021 年 4 月開設
- ・ 診療科目：内科、外科、整形外科、皮膚科、心療内科、リハビリテーション科、循環器内科、形成外科
- 注 現在、外来診療は行っておらず、入院患者のみの対応
- ・ 病床数 120 床 全病床が「地域包括ケア病床」として運用
(蕨市立病院は現在、全病床を「急性期一般病床」としている。)

<地域包括ケア病棟とは>

対象患者

急性期の治療を終えた患者、在宅での生活が不安な患者、在宅療養中に一時的に体調を崩した人など

入院期間の目安

60 日以内（比較的短期）

提供されるケア

医師・看護師に加え、リハビリ・退院支援・在宅支援など多職種によるサポート
指針

在宅や介護施設への復帰

保険制度上の扱い 地域包括ケア病棟入院料（包括評価）。

一般的な医療では「検査ごと」「処置ごと」に料金が加算されるのに対して、地域包括ケア病棟では 1 日いくらの定額でまとめて支払う仕組み。

5 施設の特徴・見学のポイント

- ・地域包括病棟のみの病院
- ・特徴ある病院名称
- ・地域との差をなくす建物のこだわり（設計コンセプト）・自宅をイメージする病室のこだわり（設計コンセプト）・カンファレンスは全職種（医師、看護師、セラピスト、薬剤師、相談員など）病棟ごとに毎日 30 分全員参加・空間づくりを大切にしている、その一つに各階の廊下にちょっとしたスペースが設けられている。大切なコミュニケーションの空間として、医療者と患者、患者と家族、家族と相談員が気軽に腰掛けて話ができるようにと、3 人程度が掛けられるようなスペースを設けている。通路より少しへこみ囲むようにラウンドしていて、囲むような感じで少しプライベート感が持てるスペースとなっている。1 階は外部との交流・つながりを感じられるようなオープンスペースとしていて、だんだん広場と称する場所は、リハビリができるスペースでもあり、腰掛けての休憩、スタッフや訪れる家族・友人とも気軽に談笑できるようなスペースになっていて外からも見え開放的な作りになっている。また、1 階には一般も利用できるカフェがあり、窓際に設置された広く長いテーブルにはコンセントもあり、コーヒーを飲みながら仕事もできるスペースになっている。地域の賑わい交流拠点のようで、入院患者も社会・地域とのつながりを感じることができるスペースになっている。
- ・ユニフォームは襟付きのシャツとパンツスタイル。白衣はなく、職種での色の違いはなく好きなシャツを選んで着替え仕事を行っている。名札が無ければ職種がわからないがどのスタッフに声をかけても何らかの対応ができるようスタッフ側の体制がとられている。職種間の役割はあっても立場をフラットに常に患者さんにとってのベストを考え抜くチームとなっている。
- ・スタッフルームに職種の垣根はなく混在の共有スペースとしている
- ・各ベットサイドにはカメラがあり、ナースコールに連動し、テレビ電話のように様子を見ながら対応できる

6 施設内見学後の質疑 対応者 水野慎大病院長

- ・設計のコンセプト及び設計会社の選定について
- ・ケアミックス型の病院について
- ・病床の個室化について
- ・提供する食事について
- ・スタッフの確保について

7 見学、質疑を終えての所感

「おうちにかえろう。病院」は、“最期までその人らしく生きる”ことを支える在宅医療の拠点として、非常に印象的な取り組みを行っていた。見学を通じて特に印象に残ったのは、医師・看護師・介護士・ソーシャルワーカーなどが垣根なく連携し、「患者さんが住み慣れた自宅で過ごせること」を第一に考えた医療が実践されていた点である。病院でありながら「おうちの延長」のような温かみがあり、まさに“医療と生活の架け橋”という言葉がふさわしいと感じた。また、患者本人だけでなく、家族や地域全体を支える姿勢が強く伝わってきた。在宅復帰を前提とした短期入院の仕組みや、地域包括ケアのモデルとなるような取り組みは、今後の高齢社会において非常に重要な視点だと実感した。医療の場でありながら「生き方」や「暮らし」に焦点を当てているこの病院の考え方は、従来の病院像を超えた新しい形の医療の在り方を提示していると感じた。